

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成25年8月15日 (2013.8.15)

【公表番号】特表2013-517776(P2013-517776A)

【公表日】平成25年5月20日 (2013.5.20)

【年通号数】公開・登録公報2013-025

【出願番号】特願2012-550188(P2012-550188)

【国際特許分類】

C 1 2 N 5/02 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 5/02

【手続補正書】

【提出日】平成25年6月28日 (2013.6.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

細胞培地中で増殖する細胞の細胞増殖を高める方法であって、

前記方法は、

前記細胞培地に、組み換えアルブミンを含む補足物を追加する工程を含み、

前記組み換えアルブミンは植物中で生成され、

前記補足物は約 1 E U エンドトキシン / 1 m g アルブミン未満を有し、および、

前記アルブミンは約 2 % 未満の凝集アルブミンを含むことを特徴とする方法。

【請求項 2】

無血清培地に適応させた細胞の生産性を高めるための方法であって、

前記方法は、

前記無血清培地に、組み換えアルブミンを含む補足物を追加する工程を含み、

前記組み換えアルブミンは植物中で生成され、

前記補足物は約 1 E U エンドトキシン / 1 m g アルブミン未満を有し、および、

前記アルブミンは約 2 % 未満の凝集アルブミンを含むことを特徴とする方法。

【請求項 3】

前記細胞は組織培養細胞であることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記細胞は、C H O 細胞、ハイブリドーマ細胞、ペロ細胞、またはプライマリー細胞からなる群から選択されることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の方法。

【請求項 5】

前記プライマリー細胞は幹細胞であることを特徴とする請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

前記プライマリー細胞は B 細胞由来であることを特徴とする請求項 4 に記載の方法。

【請求項 7】

前記プライマリー細胞は B 細胞であることを特徴とする請求項 4 に記載の方法。

【請求項 8】

前記プライマリー細胞は T 細胞由来であることを特徴とする請求項 4 に記載の方法。

【請求項 9】

前記プライマリー細胞は T 細胞であることを特徴とする請求項 4 に記載の方法。

【請求項 10】

前記補足物は熱ショックタンパク質の少なくとも約 0.01 % w t / w t を含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の方法。

【請求項 11】

前記熱ショックタンパク質はイネの熱ショックタンパク質であることを特徴とする請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

前記イネの熱ショックタンパク質は、イネ H S P 7 0 とイネの胚乳腔の結合タンパク質とからなる群から選択されることを特徴とする請求項 11 に記載の方法。

【請求項 13】

前記イネの熱ショックタンパク質は、イネ (g b | A C J 5 4 8 9 0 . 1 |)、E E C 6 9 0 7 3 / O s I _ 3 7 9 3 8、および、A A B 6 3 4 6 9 からなる群から選択されることを特徴とする請求項 11 に記載の方法。

【請求項 14】

前記補足物は少なくとも約 0.01 % w t / w t H S P 7 0、少なくとも約 0.04 % w t / w t H S P 7 0、少なくとも約 0.06 % w t / w t H S P 7 0、少なくとも約 0.08 % w t / w t H S P 7 0、または少なくとも約 0.1 % w t / w t H S P 7 0 を含むことを特徴とする請求項 12 に記載の方法。

【請求項 15】

前記組み換えアルブミンは、約 1 0 0 m g / L と約 2 0 0 m g / L の間、約 2 0 0 m g / L と約 4 0 0 m g / L の間、約 4 0 0 m g / L と約 6 0 0 m g / L の間、約 6 0 0 m g / L と約 8 0 0 m g / L の間、約 8 0 0 m g / L と約 1 0 0 0 m g / L の間、約 1 0 0 0 m g / L と約 2 0 0 0 m g / L の間、約 2 0 0 0 m g / L と約 5 0 0 0 m g / L の間、約 5 0 0 0 m g / L と約 1 0 0 0 0 m g / L の間、または約 1 0 0 0 0 m g / L と約 2 0 0 0 0 m g / L の間の最終濃度になるまで加えられることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の方法。